

『ひろがる言葉 小学国語 四下』年間指導計画・評価計画（案）

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現（◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと） ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10	—	四年生で学ぶこと				
10	8 (書く2)	一 場面のうつりかわりと結びつけ、登場人物の変化を読もう	□人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み、読書の世界を豊かにする。			
		ごんぎつね	△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、生命の尊さを感じ取り、生命あるものについての見方を深める。	1～3 4・5 6 7・8	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 登場人物を確認し、作品の全体像をとらえる。 (1) 登場人物を確認し、それがどのように紹介されているか確かめる。 (2) ごんの気持ちがわかる表現を場面ごとに見つけ出し、気持ちの変化について考えを話し合う。 考えよう 2. ごんと兵十の心の動きを読む。 (1) ごんに対する兵十の気持ちの変化を読む。 (2) ごんと兵十の関係の変化を読む。 深めよう 3. 憤りを始めるきっかけとなったごんの想像の理由を考える。 *兵十の人物紹介の場面の叙述が、実は、ごんの想像の理由にもなっていたことを読み取る。 4. ごんと兵十の心のつながりについて、思ったことをノートにまとめる。 *ごんと兵十の心のすれ違いやつながりについて考えを書く。 *書いたものを紹介し合い、場面の移り変わりと人物の心情の変化について考えを整理する。 広げよう 5. この物語のおもしろいところや工夫されているところをお薦めする「せんでんポスター」を書く。 (1) 物語の内容をもとに、ポスターの題名を考える。 (2) できあがったポスターを読み合う。 ○場面の移り変わりと、登場人物の気持ちの変化をとらえることができたかを、ノートなどを見直しながら振り返る。 ○『ごんぎつね』をお薦めするポスターに、自分の考えた題名をつけ、それに対する説明を書くことができたか振り返る。	◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) 【態度】積極的に、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
11	8 (話す聞く 8)	二 目的や進め方をたしかめて話し合おう	◇司会者や発言者などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えをよく伝え合って話し合う。			
		新スポーツを考えよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 →知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 →◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 →思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 →思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 →◎思判表A(1)オ ◇グループや学級全体での話し合いなど、考えを伝え合う活動。 →思判表A(2)ウ ☆総合的な学習の時間・特別活動など：司会者や提案者・記録者などの役割を知り、分担して話し合いを進める。合意形成の仕方学ぶことに生かせる。	1 2・3 4 5～7 8	○単元名やリード文を読み、役割を決めたり、進行に従って話したりする方法について話し合い、学習の見通しをもつ。 (1) これまでのクラスの話し合いを振り返る。 (2) これまでにどんなことを話し合ったか話し合う。 決めよう・集めよう 1. 誰と、どんな新スポーツをやりたいかを考える。 (1) クラスで話し合う新スポーツについて決める。 組み立てよう 2. 役割を決め、進行について打ち合わせをする。 (1) 話し合いの仕方や結果などのよかった点・問題点などを話し合う。 *シナリオ会議やロールプレイを行う。 話そう・聞こう（重点） 3. 役割に気をつけて、クラスで話し合う。 (1) 教科書を読み、夏川さんのクラスの例をもとに学習の流れをつかむ。 伝え合おう 4. 話し合いを振り返る。 (1) 夏川さんのクラスの話し合いをもう一度読み、どこがよいのか発表し、役割ごとの留意点を確認する。 (2) 学級会（2回目）を行い、振り返りをして、次の準備を行う。 (3) 学級会（3回目）を行い、振り返りをする。 (4) 自分たちの話し合いについて気になる点に注意できたか、友達の意見と自分の意見をつないだり、比べたりして話し合えたか、ノートに書いて発表し合う。 ○今後のクラスでの話し合いについて考える。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ） 【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。
11	2	漢字の広場 ④ いろいろな意味を表す漢字	△一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 →知技(2)イ	1 2	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「手」という漢字がもつ複数の意味について考える。 2. 「手」の五つの意味別に、語句を集め、話し合う。 3. 選択肢のそれぞれの言葉の意味を考え、「本」「親」「名」「原」という漢字がもつ複数の意味と比べる。 4. 漢字辞典を使って、「長」「家」「札」がもつ複数の意味を調べる。 5. 漢字辞典を使って、これまでに学習した漢字がもつ複数の意味を整理し、意味別に熟語を集め、ノートにまとめる。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ④ 三年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. ３年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 8. 作った文を互いに発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
11 ～ 12	9 (書く2)	三 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう	□ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列に沿って読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。			
		ウミガメの命をつなぐ	△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア	1～5 6・7 8 9	○単元名や二枚の写真を手がかりに学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 名古屋港水族館が取り組んだ二つの研究の経過を読み、時系列に沿って整理する。 (1) 題名や写真・図を見て、考えたことを話し合う。 *話題は何か *筆者が伝えたいことはどんなことだと思うか (2) 名古屋港水族館が取り組んだ二つのウミガメの研究を時系列に沿って整理する。 *どんな研究をしたか *いつ・どんなことがあったか。 *明らかにになったことや残った問題は何か。 考えよう 2. 興味をもったことを中心に文章を要約する。 (1) p.54に示されている三つの例を参考にしながら、興味をもったことを明確にする。 (2) 興味をもったことを中心に大事な言葉や文を書き出す。 (3) 書き出した大事な言葉や文をもとに、興味をもったことを中心にして、『ウミガメの命をつなぐ』を要約する。 	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
12	6 (書く6)	四 調べたことをわかりやすく書こう	■図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。			
		「不思議ずかん」を作ろう	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒知技(1)ウ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	1 2・3 4 5 6	○教科書の作品例を読み、秋山さんが工夫していることを確認する。 ・題名の工夫 ・書き出しの工夫 ・写真や図表の工夫 ・「ひと言メッセージ」や「参考資料」を書き加えている等 ○「学習の進め方」を読み、学習活動の見通しをもつ。 決めよう・集めよう(重点) 1. 図鑑に載せるものを決め、調べる。 (1) 身のまわりの不思議を集め、書きたいことを選ぶ。 (2) 題材について取材する。 組み立てよう 2. 組み立て表を作り、グループで話し合う。 ○できた組み立て表をグループの友達と交換して読み、意見を伝え合う。 書こう・読み返そう(重点) 3. 図鑑の原稿を書き、読み返す。 伝え合おう 4. グループで発表し合う。 ○表紙や目次をつけて、図鑑を作る。 ○学習を振り返る。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解している。〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) 【態度】積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。
12	4 (書く1)	故事成語	△故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。	1 2 3 4	1. 教材文を読んで、知っている故事成語について話し合う。 2. 教科書p.71に例示されている故事成語について、辞典を使って意味と成り立ちを調べる。 3. 故事成語を集めて、もともとなった故事や意味を、辞典を使って調べ、カードに書き、互いに交流する。 4. 好きなカードを選び、それぞれの故事成語の意味として書かれた場面(意味)を、これまでの自分の経験や生活の中の一場面であとえる簡単な文を書き、発表する。 ○学習を振り返る。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。〔知識及び技能〕(3)イ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1	2	詩を楽しもう いろいろな詩 おおきな木 とびばこ だんだん	□さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1・2	1. 『いろいろな詩』 (1) それぞれの詩を読み、感じたことを発表し合う。 (2) それぞれの詩の題名から、どのようなことを思い浮かべるかを考える。 2. 『おおきな木』 (1) 詩を音読し、内容を把握する。 (2) 詩に見られる工夫を考える。 3. 『とびばこ だんだん』 (1) 言葉の重なりや繰り返しに気をつけて音読する。 (2) なぜ、とびばこが「かいぶつ」に見えたのかを考える。 4. 気に入った詩の形式と同一ような詩を考え、発表し合う。	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】進んで、詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって発表し合おうとしている。
1	2	漢字の広場 ⑤ 熟語のでき方	△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「高温」「寒冷」「苦寒」という言葉にある二つの漢字の意味のつながりを考える。 2. 「熟語」の定義を知り、漢字の意味を考え、熟語の構成について理解する。 3. 「良薬」を例に「上の漢字が下の漢字を修飾する熟語」について考える。 4. 「お祝いの日」「清らかな流れ」という意味を表す熟語を考え、話し合う。 2 5. 「思考」「前後」を例に、「意味のうえでつながりのある漢字がならぶ熟語」について考える。 6. 「似た意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめたりする。 7. 「反対の意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめたりする。 8. 国語辞典や漢字辞典を使い、集めた熟語の意味を調べる。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑤ 三年生で学んだ漢字 ⑤	△絵を見て想像したことをもとに、３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表 B (1)ア ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒◎思判表 B (2)ウ	3・4	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 10. ３年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 11. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1～2	15 (話す聞く9, 書く1)	五 自分の経験と結びつけて考えよう	◇「便利だな」と思うものを思い浮かべ、その理由から自分にとっての「便利」とはどういうことか話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ			
1	1 (話す聞く1)	身のまわりの「便利」なものを考えよう	◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び、使いやすくなる工夫を考えて話し合う。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	1	○便利なものについて考え、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう(重点) 1. 身のまわりにある便利なものについて考える。 (1) 自分が便利と思うものをあげ、その理由を考える。 (2) 便利と思うものとその理由について、友達と話し合う。 (3) 「便利」とはどのようなものかを考える。 ○学習を振り返る。	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】進んで、目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって、クラス全体やグループで話し合おうとしている。
6 (書く1)		「便利」ということ	□「便利」とはどういうことかを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表(2)ウ □記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ ☆道徳：本文の読みを通して「便利」について考え、相手のことを思いやり、助け合うことへの見方を深める。	2	○単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 全文の範読を聞き、興味をもったことを書く。 3 考えよう 2. 文章に示されたさまざまな道具や設備から「便利」さについて考えるとともに、それらの例をもとに筆者が伝えようとしていることを話し合う。 (1) p.90に示された三つの道具や設備について、誰にとって「便利」であるか、文章から考え、ノートにまとめる。 4・5 (2) 筆者が伝えようとしていることを考え、話し合う。 6 深めよう 3. 文章と、自分で感じた「便利」「不便」という経験を結びつけて、改めて「便利」について考える。 (1) 「見たこと・聞いたこと・したこと」など、自分の経験から「便利」だと感じた道具や設備を思い浮かべる。 (2) 自分が決めた題材について、文章中の言葉や文を引用しながら考える。 (3) 「便利」について自分が考えたことを文章で書く。文章中からその題材の「便利」さを裏付ける言葉や文を探す。 7 広げよう 4. グループで文章を読み合い、感想を話し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 (〔知識及び技能〕(3)オ) 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、「便利」について考えたことを文章にまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1～2	8 (話す聞く8)	調べてわかったことを発表しよう	◇調べたことについて、写真や図、表やグラフなどを使って説明したり、話の中心に気をつけて聞いたりする。 △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 →知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 →思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 →◎思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 →思判表A(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 →思判表A(2)イ ☆社会科・理科・総合的な学習の時間など：調べたことや観察したことをポスターを使って効果的に発表する。	8 9・10 11・12 13・14 15	○単元名やリード文を読み、資料を効果的に活用して発表する方法について話し合い、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 調べることを決め、資料を集める。 (1) 教科書を読んで全体の流れを確認する。 (2) 学習計画を立て、テーマやグループを決める。 (3) 調べる方法を考える。 (4) テーマにそって調べる。 組み立てよう 2. 発表の組み立てを考えて、練習する。 *声の大きさ、間、強弱などの観点をはっきりさせて練習する。 *発表したら助言を行う。 *練習後には資料の効果について確認する。 話そう・聞こう(重点) 3. 資料を使って発表会をする。 (1) 発表するときと聞くときの大事なことを確認し、発表会を行う。 伝え合おう 4. 質問や感想を伝える。 ○学習を振り返る。	◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。
2	2	点(、)を打つところ	△読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 →◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 →知技(1)カ	1 2	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. 「ここではきものを～」 「姉がうれしそうに～」の二つの例文を読み、読点のはたらきや読点の必要性について話し合う。 2. 二つの例文に読点を打ち、意味がどう変わるのか確かめる。 3. 読点の打ち方の原則を理解する。 4. 「点を打つ場所」に気をつけて、p.102・103の設問に取り組む。 ○学習を振り返る。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】進んで句読点のはたらきを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で適切に使うとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
2	9 (書く9)	六 伝えたいことをはっきりさせて書こう	■様子がわかるように、よりよい表現を選んで書く。			
		自分の成長をふり返って	△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1 2 3・4 5～7 8 9	○教科書の作品例を読み、羽田さんが工夫していることを確認する。 *題名の工夫 *書き出しの工夫 *会話文の工夫 *構成の工夫「始め」「中」「終わり」 *いちばん書きたかったこと等 ○「学習の進め方」を読んで学習の流れを知り、見直しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 自分の成長を感じたできごとを思い出し、書くことを決める。 組み立てよう 2. 組み立て表を書き、友達と意見を交換する。 ○友達からもらった意見を参考にして、組み立て表を見直し、書く内容を考え直す。 書こう（重点） 3. 文章を書く。 読み返そう（重点） 4. 文章を読み返す。 伝え合おう（重点） 5. 文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○友達の作品のよかったところを確認する。 ・クラス全体で確認する。 ・出てきた点について、自分の作品を読み直す。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） ◎【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】積極的に、書こうとしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見直しをもって、よりよい表現を選んで文章を書こうとしている。
2	1 (書く1)	雪	△「雪」を扱った言語表現を集める。 △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1	1. 教科書の文章から「雪」を使った表現や歌を知り、声に出して読む。 2. 「雪」に関する歌や言葉を辞典などを使って調べて、ノートに書く。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで、長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし、学習の見直しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
2	2	漢字の広場 ⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け	△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。 △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 →◎知技(1)ウ △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →知技(1)エ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 →知技(2)イ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「はい」「なく」「かわる」を例に、場面の様子や意味をもとに同じ訓の漢字の使い分けについて考える。 2. 「以外・意外」「機械・機会」を例に、同じ音の漢字の使い分けについて、熟語の意味をもとに考え、話し合う。 3. 同じ訓の言葉（異字同訓）や同じ音の熟語（同音異義語）のそれぞれの意味を国語辞典で調べて、短文を作り、漢字の使い分けについて話し合う。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で正しく使おうとしている。
				2	4. 同じ読み方の漢字の使い分けについては、別の言葉に言いかえて考えるという方法を知る。 5. 別の言葉に言いかえる方法を使い、p.113下段の設問を解き、それぞれの言葉の違いを国語辞典で確認する。 6. 異字同訓や同音異義語を使った短文を作り、それぞれの意味の違いを話し合う。	
	2 (書く2)	漢字の広場 ⑥ 三年生で学んだ漢字 ⑥	△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 →知技(1)キ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えること。 →◎思判表B(1)イ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、お話の一場面を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（1）・言語活動例（2）〉	時	学習活動	評価規準
3	8 (書く2)	七 場面のうつり変わりと、登場人物の気持ちの変化を読もう	□登場人物の考え方の違いや、その移り変わりを考えながら読み、気に入った場面を物語のように書きかえる。			
		木竜うるし（人形げき）	△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについての考え方を深める。	1 		